

青 山 小 だ よ り

平成29年 7月1日

港区立青山小学校 NO.4

校長 下城 英和

学び方の転換

校長 下城英和

紫陽花の花が美しい季節を迎えております。そして梅雨明けが待ち遠しい今日この頃です。保護者の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。

さて、早いもので7月の声を聞き、子供たちが楽しみにしている夏休みまであと3週間となりました。今、子供たちは、夏休みに入る前の学期のまとめに取り組んでおります。しっかりと今学期の成果や課題を把握させ、夏休みを充実させたいと思います。

さて、この3月に平成32年度から実施の学習指導要領が発表され、来年度から学校も移行期間に入ります。その中で、学ぶ内容も変わってきますが、同時に学び方についても変えていかなければならないことも読み取れます。

学習においては、まず基礎基本の習得（読み・書き・計算）が主として掲げられてきました。確かに学習の根底であるところがおろそかであれば、その後、新しいことは積み重なっていきません。そのため、基礎基本が第一で、次にそれを活用するという学び方の流れであると思います。

しかし、これからは、今まで違った学びが必要とされています。ゴルフに例えてみると、日本では、まず、色々な打ち方を練習し、それを身に付けてからコースに出て行くという考え方が多いようです。一方、外国では、いきなりコースに出てプレイし、その結果を自分で考え、自分にはここの練習が足りないから、そのためにここを練習する、この練習は違うところに活かせるという学び方が多いのだそうです。日本と外国の一つの考え方の相違であるとは思いますが、これからの日本もこのような学び方が必要だと言われています。

この学び方は、主体的に自分で課題を見つけ、その解決に向けて自分で方策を考え、必要なことに取り組み、その結果を次へつなげていく課題解決的スパイラルな学び方です。言葉では簡単なようですが、実はとても難しい学び方です。しかし、これを身に付けておくことはとても重要です。人が生きていく社会では、自分の目の前には課題があり、それを自身で解決していく力が求められ、解決していくことで自身の力を高めていきます。これからの社会では、この力が身に付けられていないと厳しい現実が待っています。人にやってもらおう、できなくても平気、何とかなるなどの甘い考えや態度では、自分の夢を実現させることのみならず、変化の激しい社会を生きていくことはかなり厳しいと思います。

学校でも子供たちの将来を見据えて、学力は大切という視点で子供たちに指導をしています。指導する側ももう一度、学ばせ方を再考しなければならないと考えます。そして、学びの場は学校だけではなく、子供たちを囲む全てが学びの場であるととらえられます。この点から子供たちの学び方の転換は、御家庭や地域の中でも、ぜひ連携して取り組んでいただければと思う今日この頃です。御支援御協力をどうぞよろしくお願いいたします。